

# SAARC COVID-19基金について

## The Study of the SAARC COVID-19 Emergency Fund

水野光朗

MIZUNO Mitsuaki

### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が全世界的に猛威を振るっている。この感染症への対応は、一国レベルでなし得るものではなく、国際社会が共通して取り組むべき課題となっている。南アジアもその例外ではない。

南アジアでは、同地域における地域的国際機構である SAARC (南アジア地域協力連合) は、2020年3月に、SAARC COVID-19基金を設立し、この問題に対応することを決定した。本稿では、この SAARC COVID-19基金がどのようなものであり、今まで何をなし得、今後何が課題となっているのかを国際機構論の観点から実証的に明らかにすることを目的とする。

本論に入る前に、あらかじめ二点断りを入れなければならない。それは、まず第一に、この問題は、問題が生じてから一年程度しか経過しておらず、先行研究は言うまでもなく、正確かつ信頼に足る第一次資料がきわめて少ないということである。資料的制約が大きいのである。しかも、新型コロナウイルス感染症への対応は、現在進行中の問題であり、今後の展望を立てることもきわめて難しい。第二に、そもそも新型コロナウイルス感染症自体、従来存在しなかった新しい感染症であり、その正確な姿さえ明らかになっているとは言えない。

要するに、本論文の分析対象となる SAARC COVID-19基金以前の問題として、新型コロナウイルス感染症自体、よくわかっていないのである。本来、研究対象がよくわかっていない事柄について、論考を表すことは、軽率に過ぎ、とりわけ、この感染症によって命を落とす者が世界的に続出していることに鑑みると、学術研究の対象とすること自体、軽率、時には不謹慎のそしりを受けることをあえて承知のうえで、本論稿を明らかにするのは、およそ学術研究の営みは、すでに行われた先行研究が (学術的な意味での) 批判を受けることによって、前進・発展すると信ずるが故である。

新型コロナウイルス感染症は、中国・武漢で発生が初めて確認されたのが2019年末、その後全世界に広まり、地球的規模での大流行となり<sup>1</sup>、いまだ収束の兆しさも見えていない。それだけに、あらゆる領域から研究を進め、人類の英知を結集し、この問題の真相を解明し、克服する必要があるといえよう。

### 2. 先行研究

まず、事実確認として、SAARC 域内における新型コロナウイルス感染症の現状を確認

しておきたい。

SAARCの公式ウェブサイトによれば、2022年1月11日現在の感染状況は、次のとおりである<sup>2</sup>。

国名	累計感染者数 (人)	累計死者数 (人)
アフガニスタン	158381	7373
バングラデシュ	1595931	28105
ブータン	2802	3
インド	35875790	484213
モルディブ	98506	264
ネパール	833946	11606
パキスタン	1307174	28974
スリランカ	592449	15134
計	40464979	575672

2020年3月15日にオンラインで開催されたSAARCビデオ首脳会談において、設立が合意されたSAARC COVID-19基金 (SAARC COVID-19 Emergency Fund) への各国の拠出金額は、次のとおりである<sup>3</sup>。

国名	拠出額 (米ドル)
アフガニスタン	100万
バングラデシュ	150万
ブータン	10万
インド	1000万
モルディブ	20万
ネパール	831393.45ドル <sup>4</sup>
パキスタン	300万
スリランカ	500万

SAARC COVID-19基金に焦点を絞った先行研究は、管見の限り、邦文では皆無で、英文によるものでは、スムルティー・S・パトナイク (Smruti S. Pattanaik) によるものが唯一のようである。パトナイクは、'SAARC COVID-19 Fund: Calibrating a Regional Response to the Pandemic' 論文において、おおむね次のように述べている<sup>5</sup>。

[SAARC 史上] はじめて [新型コロナウイルス感染症の] 世界的大流行によって、地域内の指導者らが、各国がこの危機にどのように対処するかを議論し、域内における医療従事者にオンラインで教育訓練を実施することを含む知識・経験を共有することによって、協力する方法を共に考え出すことになった。このことを、将来SAARCを活性化させる良い兆候として捉える向きもある。いくつかの合意された目的 (on several agreed agenda) にもとづくSAARC加盟各国の事務レベルの会合は定期的に持たれたものの、第19回SAARC首脳会談が開催されるべきことをここで指摘しなければならない。

西アジア地域は、スリランカの全出稼ぎ労働者の行き先の79%を占めており、バングラデシュのGDPのうち5.7%が出稼ぎ労働者からの送金となっているが、そのうち最大のものは、西アジアからの送金である。ところが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大ため、西アジアへの出稼ぎが困難になり、これらの国々は大きな経済的打撃を受けている。

モルディブ、スリランカ、ネパールでは、観光業が歳入の大きな部分を占めている。短期間で新型コロナウイルス感染症が拡大する恐れがあるため、観光業が制約を受けて大き

な打撃を受けている。モルディブの貿易収入のうち、観光業は79%、ブータンとネパールでは貿易収入のうち4分の1以上が観光業によっている。モルディブのGDPのうち66%が観光業からの収益となっている。

域内では人々の大半 (a majority of the people) がインフォーマル・セクターで雇用されている。バングラデシュでは労働力人口の85.1%、スリランカでは58.0%がインフォーマル・セクターで働いている。新型コロナウイルス感染症の大流行による都市封鎖やソーシャル・ディスタンス (social distancing norms) によって、インフォーマル・セクターは大きな打撃を受けている。

インドがSAARCに新風を吹き込む立場にあることは、論を待たない。域内の最大の大国として、大流行の影響を最小限に抑えようという意向を示していた。[2020年3月15日のSAARC首脳会談] ビデオ会談を行うというナーレンドラ・モーディー首相の提案に先立って、インドは、域内のいくつかの国々からNDA [National Democratic Alliance ; BJPを中心とする連立政権] 連立政権が対外政策の重要政策として位置付ける「近隣諸国第一政策」の一環として、医療支援の要請を受けていた。

3月13日、モーディー首相は、ツイッターで、「SAARC加盟国が指導力を発揮して、新型コロナウイルス感染症と闘う強力な戦略を打ち立てることを提案したい」と述べた。インドは、異論が出ることを避ける [to steer clear of any controversy] ために、ビデオ首脳会談を提案し、COVID-19基金の設立は、「SAARCの通常の予定」とは関わらせない別の活動であることを鮮明にした。

2016年、特に、パキスタンに拠点をおくテロリストによるウリー攻撃 (Uri attack)<sup>6</sup>以降、SAARCの歩みは止まってしまっていた。何十年にもわたって、パキスタンが支援するテロ攻撃の犠牲となっているインドは、パキスタンが国境を越えるテロ攻撃を中止しない限り、現状以上の地域協力は無理であると既に明らかにしていた。事務レベルでの会合は継続していたが、[何年にもわたって] 首脳会談が行われていないことは、重要な領域で地域協力を前進させる上で、妨げとなっている。

SAARC加盟国間で、新型コロナウイルス感染症に協力して対応することが提案されているが、これは、加盟国首脳が全会一致でなければ決定を行うことができない首脳会談の枠組みによっては、実行できない。

インド外務省によれば、新型コロナウイルス感染症は、「より広範な地域の利益のために域内各国が共同で立ち向かう上で、知識、経験、そして好事例 (best practices) を共有する」格好の材料である。地域レベルで、このように協調して努力することは、将来、SAARCを復興する好機となるだろう。

このように述べた後、次のように結論付ける。

インドの提案が、パキスタンから前向きな反応を呼び起こさなかったのは、残念である。パキスタンは、SAARC域内におけるインドの地域的な指導力を妨害し続けているのである。パキスタン以外にも、バングラデシュとネパールは、かねてよりインドが指導力を発揮することに消極的であり、インドの強い反対にも関わらず、中国をSAARCに加盟させようとしている。域内の多くの国が、域内におけるインドの優位性をそぎ落とすために、中国を地域的バランサー (a regional balancer) として利用し、今でも利用し続けているのである。

保健上の危機 (the health crisis) とそれに伴う経済的悪影響によって、地域協力が必要になっている。それゆえに、喫緊の危機に迅速に対応することを妨げている構造的な制約<sup>7</sup>を改めて考える必要がある。もしパキスタンが真に SAARC が機能することを真に望み、地域協力が SAARC の全会一致原則によらなければならないことを認めるのであれば、インドやアフガニスタンといった加盟国に対するテロ支援を中止すべきである。

このように、パトナイクは、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行には、南アジア諸国 (SAARC 加盟国) が協力して対応する必要があると述べながらも、SAARC 加盟国相互間の対立、とりわけ、パキスタンのインドに対するテロ支援を行うことによって、域内協力が阻害されていると言う。そして、この問題に関して SAARC 首脳会談を早期に開催する必要があるとしながらも、SAARC が全会一致原則を採っていることによって、それが困難になっているとも言っているのである。

パトナイクのこの主張は、大別して次の3点で問題があると言わざるを得ない。

まず、パキスタンがテロ支援、いわゆる越境テロによってインドとの関係を悪化させている、という指摘である。インドは、2016年のウリーテロ攻撃以前から、主としてジャンム・カシミール州において、パキスタンが越境テロ攻撃を行っていると主張し、越境テロとの関係を否定するパキスタンとの間で対立を深めてきた。しかし、SAARC は憲章第10条で、二国間問題および紛争の問題は審議事項としないと規定しており、インド・パキスタン間の二国間問題はそもそも SAARC の枠外で解決すべきである。したがって、インド・パキスタン間の二国間問題を SAARC の活動と結び付けて議論することは、不適切である。

第二は、SAARC の活動は、全会一致原則によるので、首脳会談を開催しても成果が得られないという指摘である。これも憲章第10条が、あらゆるレベルにおける会議の決定は、全会一致に基づくことと規定していることに照らすと、全会一致原則の存在を根拠として首脳会談を開催しえないということではできないのである。全会一致原則は、首脳会談に限らず、パトナイクが述べるようにあらゆるレベルにおける会議に適用されるから、全会一致原則の存在が会合の妨げになるのであれば、事務レベルの協議も不可能になってしまう。実際には、事務レベルでの会議は開催されているのだから、パトナイクの議論は、論理的に自己矛盾に陥っている。

そして第三は、パトナイクの分析は、SAARC としての対応ではなく、SAARC 加盟国 (例えば、インドやパキスタンなど) それぞれ一国単位での対応に終始しており、国際機構としての SAARC を考察の対象とはしていないのである。

そこで、以下、現時点で入手しうる第一次資料に基づきながら、SAARC COVID-19 基金について述べることにしたい。

### 3. SAARC COVID-19基金の設立

SAARC が、COVID-19基金を設立するに至る経過については、すでに論じたことがある<sup>8</sup>が、ここでその経緯を簡単にまとめておきたい。

2020年3月15日、ナーレンドラ・モーディーインド首相の提案で、SAARC はビデオ首脳会談を行った。この会談には、保健相が出席したパキスタンを除くと、加盟各国の大統領あるいは首相が出席した。会談では、モーディー首相は、SAARC COVID-19基金の

設立と資金拠出を各国に提案し、インドは1000万ドルを拠出すると表明した<sup>9</sup>。パキスタンを含む全加盟国がこの提案に賛同し、本論文の冒頭で述べた金額を拠出したのであった。

#### 4. 新型コロナウイルス感染症をめぐるその後の SAARC の対応

2020年3月15日の SAARC COVID-19基金設立後の SAARC の対応を以下、時系列的に整理する。

2020年3月20日、ブータン外務省は、SAARC COVID-19基金に10万ドルの拠出を表明し、SAARC 全加盟国に全面的に協力することを表明した<sup>10</sup>。

3月20日、モーディーインド首相は、シャルマー・オリネパール首相から SAARC COVID-19基金に拠出する旨表明があったことに謝意を表した<sup>11</sup>。

3月21日、モーディーインド首相は、モルディブ政府から SAARC COVID-19基金へ拠出の申し出があったことを明らかにし、これを歓迎すると述べた<sup>12</sup>。

3月23日、インド外務省は、『新型コロナウイルス感染症に関する SAARC 首脳会談ビデオ会議についての補足 (*Follow up on the Video Conference of SAARC Leaders on COVID-19*)』と題する報道発表 (Press Release) を発表し、「基金が既に動き出しており、域内の諸国から寄せられている緊急の医療物資支援がこの基金を通じて行われている」ことを明らかにした<sup>13</sup>。ただし、SAARC のウェブサイトによる限り、基金の運用方法が議論された形跡はない。

3月23日、在ブータンインド大使館は、『ブータンに医療物資を渡す (*Handling over of medical supplies to Bhutan*)』と題する報道発表を公表し、SAARC COVID-19基金を活用して、インドがブータンに医療用のマスク、手袋、防護服、手指消毒薬を供与したと明らかにした<sup>14</sup>。なお、この医療物資の援助について、とりわけ SAARC でどのような議論がなされたのか、どのような政策決定過程をへてこの援助がなされたのかについては、一切不明である。

4月7日、在スリランカインド大使館は、『インド、スリランカに10トンの医療物資を援助 (*India gifts a 10-tonne consignments of medicines to Sri Lanka*)』と題する報道発表を公表し、「SAARC 加盟国の保健専門家会合がビデオ [オンライン] 会議で2020年3月26日に行われ、インド保健省は、SAARC 諸国で保健専門家を対象としたオンライン研修会を開始したと明らかにした<sup>15</sup>。

4月23日、インド外務省は、『インド、パキスタン主催の新型コロナウイルス感染症に関する SAARC 保健相ビデオ会議に参加 (*India's participation in the video conference of SAARC Health Ministers on COVID-19 hosted by Pakistan*)』と題する報道発表を公表し、4月23日にパキスタン主催の新型コロナウイルス感染症に関する SAARC 保健相ビデオ会議が行われ、「SAARC COVID-19基金の設立と活用」が、「目に見える実効性のある措置 (the visible practical steps) である」と確認されたとした<sup>16</sup>。ただし、パキスタンと SAARC からこの会議について何らかの発表がなされた形跡はない。

9月24日、インド外務省は、『(バーチャルモード [=オンライン] による) 非公式 SAARC 閣僚会合 (*Informal Meeting of SAARC Council of Ministers (Virtual Mode)*)』と題する報道発表を公表し、9月24日、ネパール主催のオンライン非公式 SAARC 閣僚



会合が開催され、ジャイシャンカルインド外務担当国務相は、インドが SAARC COVID-19基金に拠出したことによって、230万米ドル相当の重要な薬品 (essential drugs)、医療用消耗品、新型コロナウイルス感染症検査キットなどを SAARC 加盟国に供給する準備ができています、と述べた<sup>17</sup>。

2021年7月7日、モルディブ外務省は、駐モルディブパキスタン大使が、モルディブ外務省を訪れ、新型コロナウイルス感染症対策費として、パキスタンが SAARC COVID-19基金から、5958781.44モルディブ・ルピアの小切手を引き出し、モルディブに援助を行ったと発表した。シャヒードモルディブ外相は、席上、イブラヒーム・モハンマド・ソーリーモルディブ大統領、モルディブ政府、モルディブ国民を代表して、イムラン・カーンパキスタン外相、パキスタン政府、パキスタン国民に、資金援助について深く感謝すると述べた<sup>18</sup>。

このように、SAARC COVID-19基金にすべての SAARC 加盟国が拠出したものの、その運用について SAARC で議論がなされた形跡はなく、本稿執筆の時点では、インドとパキスタンがこの基金から資金を引き出して、他の SAARC 加盟国に供与するにとどまっている。

## 5. SAARC COVID-19基金についてのメディアの反応

次に、こうした SAARC COVID-19基金について南アジアのメディアはどのように見ているのだろうか。メディアの反応を見ることによって、人々がこの基金をどのように受け止めているのかを知る手がかりを得ることができよう。

インドの *Hindu* は、2020年4月10日に、パキスタンが SAARC COVID-19基金に300万ドルを拠出したことについて、パキスタンは拠出金額はカトマンズにある SAARC 事務局が決定し、SAARC 憲章に則って SAARC 加盟国と事務局が協議を行い、最終的に決定すべきであると主張している、と報じた<sup>19</sup>。要するに、拠出金は各国が金額を決めるのではなく、各国が SAARC 事務局と協議を行い決定されなければならない、と言うのである。

他方、*The Economic Times* は、2020年3月15日、パキスタンは、新型コロナウイルス感染症対策を議論すべき同日の SAARC 首脳ビデオ会談で、カシミール問題を持ち出し、インドのジャンム・カシミール州で行われている都市封鎖はインドが新型コロナウイルス感染症対策に名を借りて行っているもので、実質、同州をインドが政治的経済的に締め付けているだけであり、直ちに中止すべきであると主張したと報じている。そして、「パキスタンは常にカシミール問題を国際化しようとしているが、インドは、[カシミールについてのインド憲法] 370条の問題は、「内政問題」であるとしている。ニューデリーは、イスラマバードに現実を受け入れ、反インドの活動をやめるよう求めている」と付け加えている。

かくして、管見の限り、SAARC COVID-19基金設立の事実を簡単に紹介する記事（たとえば *The Economic Times*, 2020年3月20日付）を除くと、南アジアのメディアはほとんどなにも報じていないように思われる。とりわけ、SAARC が基金の運用について何も決めておらず、インドやパキスタンが SAARC と協議したのかどうか明らかではない状況で、基金から資金を引き出し、SAARC 加盟国に資金や医療物資を供与した事実について取り上げているメディアはないようである。

## 6. 小括

最後に、以上述べたことから何を言うことができるのか、そして今後明らかにすべき課題は何であるのかを明らかにしたい。

まず第一に、2020年3月15日、SAARCはビデオ首脳会談を開催し、SAARC COVID-19基金の設立を決定した。そして、すべての加盟国が資金を拠出したことを確認しておきたい。全会一致原則をとるSAARCで、すみやかにこの決定を行い得たことは、たとえば、インドとパキスタンの二国間対立によって、全会一致の合意を形成することが難しい現状を考えると、画期的である。

第二に、少なくとも報道による限り、インドとパキスタンは、この基金を活用し、他のSAARC加盟国に医療物資の援助を行った。これは、この基金が実際に機能していることを示している。SAARCには、たとえば南アジア医科大学など設立はされたものの、活動実績が必ずしも明らかではない機関があることを考えると、やはり画期的であると言える。

その半面、今後解明されなければならない課題も多い。

まず、SAARC COVID-19基金の運用について、SAARCで議論された形跡がない。運用方法が決まっていないにもかかわらず、インドやパキスタンは基金を活用し、医療物資の援助を行っている。このような活動がまかり通っているのはなぜなのか。今後の解明が待たれる。

同時に、新型コロナウイルス感染症対策についてのSAARC加盟各国の研究ではなく、一つの地域的国際機構としてのSAARCの研究も進めなければならない。

本稿の分析対象は、あくまでもSAARC COVID-19基金の研究にあるので、分析の枠外にはなるが、2020年3月15日のSAARCビデオ首脳会談のSAARCにおける位置づけについても明らかにする必要がある。

SAARC首脳会談は、憲章上、毎年一回開催されることになっているが、2014年11月の第18回首脳会談がカトマンズで開催されて以来、開催されていない。2016年11月に第19回首脳会談がイスラマバードで開催されることになっていたが、同年に発生したカシミールでのテロ事件（ウリー攻撃）によって開催が中止され、これ以来開催されていない。ビデオ会談には、SAARCの全加盟国の代表（パキスタンのみ保健相、それ以外の国は大統領又は首相）が出席している。このビデオ会談で第19回首脳会談を開催する問題が議論されたのか、されなかったのか、現時点では明らかではないものの、今後の課題の一つに挙げるであろう。

## 主要参考文献

Smruti S. Pattanaik, 'SAARC COVID-19 Fund: Calibrating a Regional Response to the Pandemic' in *Strategic Analysis*, Vol. 44, No. 3, 2020, pp. 241-252.

水野光朗著、「新型コロナウイルス感染症と国際機構——国際連合安全保障理事会とSAARC（南アジア地域協力連合）の対応を中心に」、『都留文科大学研究紀要』、第93集、2021年、29-44ページ。

卷末資料

★武漢で「新型感染症」拡大  
 中国湖北省武漢市で原因不明のウイルス性肺炎が広がっており、同市政府は三日、患者が四十四人に増えたと発表した。また香港政府は四日、武漢から香港に渡航した七人に肺炎の症状が出たと明らかにし、「公衆衛生にとって重要な新型感染症」とみて、警戒レベルを三段階のうち一番目の「嚴重」に引き上げた。

武漢市政府によると、感染は市中心部の海鮮市場の関係者を中心に年末から広がっており、四十四人のうち十一人が重症だという。同市政府は患者と接触した百二十一人を隔離して経過をみているほか、海鮮市場を一日から閉鎖した。感染源などの原因は不明としているが、鳥インフルエンザではないとしている。  
 (北京・中沢穰)

『中日新聞』、2020年1月5日付。『中日新聞』が「新型感染症」について報じたのは、この記事が最初である。

新型コロナウイルス検出

中国武漢の原因不明肺炎

【北京＝坪井千隼】中国国営新華社通信は九日、湖北省武漢市で広がっている原因不明のウイルス性肺炎について、複数の患者から新型のコロナウイルスが検出されたと報じた。コロナウイルスには、二〇〇三年に中国などで感染が拡大した重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)の原因ウイルスも含まれる。病原体を調査した専門家チームによると、今回の新型ウイルスはそれらとは異なる種類という。

ただ、調査チームは、新型ウイルスの場合「特効薬やワクチンをつくるには数年かかる」との見方を示した。

世界保健機関(WHO)は九日の段階では新型ウイルスかどうかの判断は示さず、「詳細な調査が必要」と述べるにとどめた。関係各国や機関には冷静な対応を呼び掛けている。

武漢市当局によると、原因不明のウイルス性肺炎は、これまでに五十九人が発症し、うち七人が重症。死者は出ておらず、八日までに八人が退院した。

今月下旬に春節(旧正月)

目を迎える中国では、多くの人が国内外に移動するだけに、中国政府は感染拡大への警戒を強めている。

『中日新聞』、2020年1月10日付。『中日新聞』が「原因不明のウイルス性肺炎」が「新型コロナウイルス」によるものであることを報じたのは、この記事が最初である。



- 1 巻末資料も参照。
- 2 <http://covid19-sdmc.org> による。なお、このウェブサイトでは統計数値はほぼ毎日更新されているが、URLは同一である。また、下の表中、加盟国合計の累計感染者数、累計死者数が合っていない。その理由は明らかではない。
- 3 <http://covid19-sdmc.org/covid19-emergency-fund>。
- 4 註3によれば、ネパールは1000万ネパールルピーを拠出したとされ、831393.45米ドルと換算されている。
- 5 Smruti S. Pattanaik, 'SAARC COVID-19 Fund: Calibrating a Regional Response to the Pandemic' in *Strategic Analysis*, Vol. 44, No. 3, 2020, pp. 241-252.
- 6 2016年にカシミール地域のインド側実効支配領域であるジャンム・カシミール州のウリーで、テロ事件が発生した。インドは、このテロ事件の背後にパキスタンの存在を指摘した。パキスタンは、この指摘を強く否定し、逆に、インドがテロ組織を支援しているとインドを強く非難した。
- 7 SAARCの全会一致原則を指す。
- 8 水野光朗著、「新型コロナウイルス感染症と国際機構—国際連合安全保障理事会とSAARC（南アジア地域協力連合）の対応を中心に」、『都留文科大学研究紀要』、第93集、2021年、29-44ページ。
- 9 *PM interacts with SAARC leaders to combat COVID-19 in the Region, PM proposes set up of COVID-19 Emergency Fund for SAARC countries*, Press Information Bureau, Government of India, Prime Minister Office, March 15, 2020.  
<https://pib.gov.in/newsite/PrintRelease.aspx?relid=200258>
- 10 *Press Release*, Ministry of Foreign Affairs, Royal Government of Bhutan, n.a.,  
<http://www.printfriendly.com/p/g/ipRhc> 9
- 11 *PM appreciates PM of Nepal*, Prime Minister's Office, March 20, 2020.  
<https://pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=1607471> ネパール側資料でこの発言を裏付けるものはない。
- 12 *PM appreciates Government of Maldives for contributing to COVID-19 Emergency Fund*, Prime Minister's Office, March 21, 2020.  
<https://pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=1607541> ただし、モルディブ側にこれを裏付ける資料は見当たらない。
- 13 [https://mea.gov.in/press\\_release.htm?dtl/32595](https://mea.gov.in/press_release.htm?dtl/32595)
- 14 <https://www.indembthimphu.gov.in/event.php?id=466>
- 15 <https://hicolombo.gov.in/press?id=eyJpdil> 6 ImI
- 16 <https://mea.gov.in/press-release.htm?dtl/32649>
- 17 <https://www.mea.gov.in/press-release.htm?dtl/33054>
- 18 *Maldives Receives Aid from Pakistan through the SAARC COVID-19 Emergency Fund*, July 7, 2021. <https://www.gov.mv/en/news-and-communications>
- 19 *The Hindu*, April 10, 2020.

Received : September, 30, 2021

Accepted : November, 2, 2021